

2025 年 1 月 27 日

関係者各位

独立行政法人国立科学博物館 標本資料センター
神保 宇嗣

第 44 回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会の開催について（案内）

平素より、自然史標本データ整備事業につきまして、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、第 44 回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会を、大阪市立自然史博物館（大阪府大阪市）において、下記のとおりハイブリット方式で開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

参加を希望される方は、2 月 17 日（月）までに下記の事前申込みフォームよりお申込みください。多くの皆様のご参加をお待ちいたしております。

記

日時：2025 年 2 月 23 日（日）13 時 00 分～16 時 30 分

場所：大阪市立自然史博物館 講堂

（〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 <https://omnh.jp/>）

及びオンライン（Zoom 使用・定員 200 名程度）

主催：国立科学博物館

共催：大阪市立自然史博物館

協力：西日本自然史系博物館ネットワーク

申込み締切：2025 年 2 月 17 日（月）24 時

申込みフォーム：<https://forms.gle/FxEPBcRRkHwrGs8HA>

備考：講堂からの参加は定員 170 名

入場料として別途 300 円が必要になります（本研究会への参加は無料です）。

プログラムは別紙をご覧ください。

本件に関する連絡先

国立科学博物館（S-Net/GBIF 担当）

神保宇嗣・太田藍乃・柿添翔太郎・江守知保

電話：029-853-8277 E-mail: s-net_info@kahaku.go.jp

第 44 回 自然史標本情報発信に関する研究会
ー自然史博物館の画像公開を考える：実務とシステムの両面からー

昨今、博物館には、標本資料等のデジタル・アーカイブの構築とその公開が求められるようになり、自然史系博物館においても実際にさまざまな動きが見られます。その公開や連携のありかたについては模索段階にあり、デジタル・アーカイブをなぜ・どのように構築するのか、自然史系博物館として統一した見解が必要となりつつあります。

デジタル・アーカイブは、国内の自然史系博物館だけの話ではありません。各国あるいは国際的なプロジェクトによって自然史標本資料の画像を含めたデータ公開や利活用が進んでおりますし、自然史系以外のプロジェクトも数多くあります。さまざまな分野の先駆的な試みは、自然史系博物館分野での今後の意思決定に重要な示唆を与えてくれます。

そこで、今回の研究会では、前回に引き続きデジタル・アーカイブの構築を取り上げます。前半では、2024年9月に沖縄で開催された生物多様性情報分野の国際会合（SPNCH-TDWG 2024）をはじめ、国内外の様々な分野での情勢を取り上げます。後半では、館内での実務に焦点を当て、デジタル・アーカイブの館内における活用や、サイエンスミュージアムネット（S-Net）を含めたデジタル・アーカイブの構築と公開に焦点を当てます。これらの情勢や意識を共有した上で、デジタル・アーカイブ構築の今後の方針について議論する場にしたいと思います。

講師：

神保宇嗣・柿添翔太郎・太田藍乃（国立科学博物館 標本資料センター）

佐久間大輔（大阪市立自然史博物館）

海老原淳（国立科学博物館 植物研究部）

高田祐一（奈良文化財研究所）

大西亘（神奈川県立生命の星地球博物館）

内容（プログラム）：

- 1) 諸注意・趣旨説明【神保】
- 2) デジタル拡張標本の動きと世界動向【佐久間】
- 3) SPNHC-TDWG 現地参加レポート！世界の画像収集・活用の最前線【柿添・太田】
- 4) 文化財分野においていかにデータ公開を進めているか【高田】
- 5) 画像アーカイブで内部業務を効率化する【海老原】
- 6) 画像を公開していくためには何が必要か
 - I. 学術情報流通における博物館の役割【大西】
 - II. S-Net を利用した画像公開に向けた課題【神保】
- 7) パネルディスカッション
- 8) 閉会挨拶【西日本自然史系博物館ネットワーク】

ご参加いただくには、事前の申込みが必要です。

以下のサイトよりお申し込みいただけますと幸いです。

申込み締め切り：2025 年 2 月 17 日（月）24 時

申込みフォーム：<https://forms.gle/FxEPBcRRkHwrGs8HA>